

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300320		
法人名	社会福祉法人 博美会		
事業所名	小規模多機能型ホーム 富士の里		
所在地	静岡県富士市天間1627番地の1		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&igvosyoCd=2292300320-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は栄養士の献立により三食手作りで極力加工品を使わないように提供して年四回家族会を開催しており、家族との連携がとれている
機能低下予防の為、月一回PTの訪問、各種体操、季節に合った外出を取り入れている
関連医療機関からの訪問診療、訪問看護ステーション、居宅療養管理指導により健康管理支援対策が整っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年この地域に住み、慣れ親しんで来た利用者が、違和感なく同様の生活が継続できるよう支援している。全職員が法人理念「家族を連れてこれる場所」を念頭に、利用者一人ひとりに寄り添う姿勢で実践している。管理者と職員、職員同士の意思疎通が良く、個々の情報への関わり方を考え、生きがいのある日を過ごせるようにチームで支援している。地域の高齢者福祉や医療・介護に関する諸機関や法人傘下の施設、各種事業所が連携しており、見守られているような事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支え支援をしている。法人理念「家族を連れてこれる場所」を念頭にいつでも気軽に立ち寄れるように職員一同心掛けている	法人理念のもと、事業所としての特性を職員が共有して行動している。地域に開かれた事業所として、家族をはじめ来訪者に利用者の現況の丁寧な説明や意見聴取に努め、サービス向上にも役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連合会長の声かけや後押しもあり、地域の行事に積極的に参加している。地域との交流が一年一年増えてきており、地域との繋がりが出来てきている	地区を統括する連合町内会長の事業所への理解も深く、地域の恒例行事にも住民として参加している。どんど焼きや梅まつり、クリスマス会、民生委員主催の子育てサロン等、住民との繋がりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	富士の里まつり等行事を通じて常日頃から、多様な啓発・広報をしている。地域防災会議等にも参加し、地域との助け合いができる関係を構築している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や情報交換だけではなく、話し合いを通じて、率直な意見をもらい、サービス向上に具体的に活かすようにしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で隔月で定期的開催している。連合町内会長や各地区民生委員等の住民代表・地域包括支援センター・市担当者・家族などが出席し、サービス向上に役立つ意見が論議されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの課題解決等で協議し、共に取り組めるようにしている。研修に参加してケアサービスのアドバイスをもらっており、事業所の実態を把握してもらっている	市担当部課と事業者間との連携は良好で、グループホーム事業者連絡会も機能している。市担当者が参加して研修会や交流会が開催され、行政や事業者からの情報も伝わり易い環境である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修・施設内研修等を行い、職員一同徹底して身体拘束「ゼロ」を行っている	身体拘束をしないケアについての基本的な事柄は、全職員が研修し理解している。利用者一人ひとりに寄り添い、思いを受入れ本人のペースに合うように気を配り、見守るように話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として、虐待のサインを見逃さないようにし防止に努めている。高齢者虐待法を遵守し取り組み実践している。日常のケアの中で傷や身体変化がないように目配りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要、手続等研修を通じて学習している。知識を得る機会を持ち、理解を深めるようにしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除時には、利用者・家族がわかりやすいように、不安にさせないように、相手の立場に立って配慮をしている。疑問を残さないように丁寧に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かす姿勢や体制が整っている。委員会を通じて改善に努め、職員で共有し実行している	法人エリア内の事業所であるが、地域に密着した開かれた事業所として、家族や外来者の意見や苦情・提案は利用者を代弁した事柄と受け止め、サービスの向上に役立てていく体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回職員の意見を聞く機会を持ったり、意見を言いやすい職場の雰囲気を取っている。職員の意見を反映し、質の向上に繋がる取り組みをしている	法人の人事管理の一環として定期的な意見交換の場もあるが、事業所内での各職員は管理者との信頼関係が強く、自分の持場を心得た責任ある行動をしている。業務遂行上の案件は速やかに解決し反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりを努めてくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場、経験や熟練度の段階に応じた研修の機会がある。働きながら学ぶ機会を作ってくれている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流を通じ、ネットワーク作りを行っている。連絡会・交流会への参加、日々のサービスや職員の育成に役立っている。一時的な繋がりではなく、実践な交流や連携に繋がるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が抱えている不安や思いを把握し、しっかりと思いを受け止め、安心してもらえるような関係づくりをしている。意向をしっかりと確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって、不安や思っていることの核心について、しっかりと思いを受け止め、安心してもらえるように関係づくりをしている。その方にあったサービスを提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に対するの対応に努め必要な介護を行っている。困ったことや不安なことに対して、直ぐに対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に話を聞くようにしている。穏やかに生活ができるように支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ともに本人を支える姿勢」で、一緒に考えていける自然な人間関係をしている。家族ともコミュニケーションをとり、ともに本人を支えていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培っていた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないような支援。知人・友人・行きつけの場所等に行き、出かける機会を作つてるように取り組んでいる	この地に住んできた利用者が殆どで、自宅近隣の方が連れ立って来訪する事もある。エリア内のケアハウスに住む知人と交流する利用者も多い。一人ひとりの馴染みの関係を継続させる支援を家族と共に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑になるための心遣いをしている。一人ひとりの個性を踏まえ、利用者の関係に配慮し、利用者が孤立しないように気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用間に培われた関係性を大切に、本人や家族が孤立等問題が予想される場合にはフォローをしている。直ぐにでも立ち寄れるような関係性をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い・希望の意向の把握を行い、少人数の馴染みの関係を活かしている。利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握するようにしている	各利用者に接する際のスキル向上を目指している。職員会議では、担当職員が各利用者に関する事柄や細かな気付きまでを話し、全員で話し合い共有し実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観はどうであったか、家族に聞き、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、アセスメント等からも本人の全体像をしるようになっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活のリズムを把握するようにしている「できない」という情報にとらわれず、できること・わかる力を本人の生活や行動から感じ取るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立って、その人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別な介助計画をしている。ニーズに即した計画作成を努めている	利用者との日常の関わりは各職員が申し送り帖に記入し、利用者の担当により纏められている。ケアマネジャーと利用者との意向聴取を兼ねた触れ合いもあり、担当者会議での意見を交え、現況に即した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子やケアの気づきを記録している。情報の蓄積に努めている。職員間の情報共有ができています。毎月の会議時には個別ケアを検討し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族の日々変化する状況や重度化していく状況、要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変かつ柔軟に提供している。医療連携をしており、24時間訪問看護と連携している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう、多様な地域資源、ボランティアによる慰問等を行い、少しでもやすらかに生き生きとした暮らしを作るように配慮している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、個別にかかりつけ医をしている。一人ひとりの受診状況を把握し、本人・家族が希望があるときに受診できるよう支援を行っている。利用者の健康面で心配がある場合、その都度相談をもつ関係性をつくっている	専門医による月々の受診を必要とする利用者を除き、殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、往診に依る受診が可能である。訪問看護師による毎週の健康管理もあり、医療に関する環境は良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、毎週一回の訪問看護を採用している。24時間サポート体制を受けている。利用者の普段の状況や持病を知っている看護師等との連携はとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制を取っており、利用者との情報の共有はできている。普段の状況や特徴などを伝えてある。病院関係者との連携はとれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの強い希望により、関係者全体の統一として看取りケアを行っている。本人・家族・主治医との話し合いを重ねている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意性をとっている。何度も話し合いを重ねてきている。勉強会を通じて質の向上に努めている	重度化や終末期に関する事業所の体制は整っている。看取りに対する家族からの要望も強く、関連項目の職員研修も医師や訪問看護師等の協力のもとで実施している。本年度は、1名の看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	けが、骨折、発作、喉の詰まり、意識不明等の対処方法を、職員研修にて救急救命法を習得を行っている。交代にて定期的に研修に参加している。緊急時の応急対応マニュアルを参照し、実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を定期的に行っている。昼夜を通じて様々な発生時間を想定し、具体的な避難誘導対策を決めている。地域住民とや消防署等との連携をとり、協力体制の構築に努めている。地域の防災会議にも出席している	年2回の法定防火訓練をはじめ、法人敷地内の併設各事業所やケアハウスとで諸災害を想定した避難訓練を月1回は実施している。地域の防災会議にも出席し、住民との連携や協力体制についての確認と情報の共有に努めている。	事業所内での備蓄品は3日分を完備しているが、県や福祉長寿局で示された平成29年度の災害マニュアルでは飲料水については7日分を推奨している。変化している点を考慮し、再チェックを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような言葉かけをしないようにしている。日常的な確認を行い、職員間にて話し合う機会をつくっている	利用者一人ひとりのプライドやプライバシーの内容はそれぞれ異なる事を職員間で理解して共有している。言葉かけにおいても、寄り添う職員により齟齬が出ないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の一人ひとりの希望、嗜好を把握するようにしている。日常の中で本人が選びやすいように声かけする場面をし、利用者が決定しやすい場面をつくっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重し、一人ひとりが本来持っているペースや望んでいるペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院行く等支援を行っている。服装の身だしなみやおしゃれを本人が自分で選べるように支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月一度のセレクト食・外食等を行い食事を楽しみにできる支援を行っている。テーブルを拭く、下膳をできる範囲で行っている。利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを美味しく食べている	利用者の高齢化が加速する中でも、食事の前後は各自が持ち場を心得てテーブル拭きや食器拭きなどに参加する者がいる。食事中は、食材などを話題にしながら職員も一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の下、本人にとって美味しいものを食べる支援を行っている。普段から利用者の食べ物、飲み物の好みや苦手な物を観察している。おやつや補食を含めて、栄養や飲水量がどれくらいかチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけをおこない、力量に応じて職員が見守ったり、介助を行う等の支援を行っている。一人ひとりに応じた歯磨きの手入れを行っている。義歯の洗浄も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行きたい時にトイレに行くことのできる支援を行っている。本人の生活リズムにそった支援、排泄チェック表参照し、声かけをしている。	一人ひとりの排泄に関する事柄は排泄記録や生活記録で把握している。その人に合わせた無理のない支援を心がけ、生活の流れの中で自然に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操、レクリエーション等身体運動を働きかけ、水分補給に努めてもいる。自然に排便ができるように取り組んでいる。下剤等使っている方は、薬をむやみに頼らないように工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・体調に合わせて入浴できるように支援している。拒否や入浴の希望等を聞き、本人に合わせた入浴時間・入浴方法を取り入れて支援を行っている。季節を感じる入浴剤を使用し、入浴を楽しんでもらっている	利用者の希望に合わせて入浴を行っているが、希望がない場合は週3回、午前を目安に支援している。入浴剤を好んで使用する利用者がいる。現在、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ具合に合わせて休息を取ってもらっている。傾眠が見られた場合には居室にて空調調節を行い休んでもらっている。いつでも休めるように支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療・訪問看護等職員付添いにて対応。服薬を厳しく管理している。薬の変更や症状の変化など情報を職員で共有している。服薬情報は個人別ファイルにて常時閲覧できるようにしてある。症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事やカラオケやレクリエーション、体操を楽しみながら支援している。洗濯ものの干し、たたみ等得意分野で一人ひとりが力を発揮できるように、お願いできる仕事を頼んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を組み、季節に合わせた外出支援や希望にあった外出を行っている。気分転換やストレスを発散させる利用者本意の外出する機会を増やしている	毎朝、外気に触れ季節を感じられるように法人敷地の中庭を散歩している。年間行事には家族の参加もあり、地域の花鳥園や観光施設等へ外向き、外食支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出・買い物に行く際には、本人にお金を渡し支払いをしてもらうように支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話等できる環境を作っている。恒例として職員支援にて暑中見舞いや年賀状は作成し郵送をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者の居心地のよい場所、安心感のある場所になるように工夫と配慮をしている。空調やトイレ内の清掃はこまめに行っている。生活感や季節感のある壁面を活用し、利用者・家族にも楽しんでもらえるよう工夫をしている	リビングは、立派な梁や広く吹き抜けた天窗から暖かな日差しが差し込みリラックスできる共同空間になっている。壁面の季節感ある掲示物も落ち着いた雰囲気であった。清潔感あるリビングは、隅々まで感染症予防を考慮した清掃を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いに添える居場所作りをしている。利用者同士の関係性などに配慮し、一人ひとりできつろいで過ごせる環境作りをしている。フロア内に置があり足を伸ばすことができるのんびり過ごせる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、必要なものを用意してもらっている。使い慣れた馴染みのあるものを傍に置くなど個別に応じた配慮をしている。その人らしく居心地のいい居室作りに配慮をしている	住み慣れた家庭生活の延長でもある居室は、安全で落ち着いた空間である。静かな暮らしを念頭に思いある品々を持ち込み、本人や家族・職員が相談のうえレイアウトしている。どの部屋も利用者の生活歴や性格が想像できる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等身体機能の変化に配慮した生活環境作りに取り組んでいる。浴室、トイレ、廊下等安全確保と自立への配慮支援をしている		